長野県革新懇ニュース

2025年３月号
発行日３月10日
会　費　2,000円
購読料　3,000円（送料込）
振　替　00510-3-15971

304

発　行　日本と信州の明日をひらく県民懇話会
（長野県革新懇）発行人：山口光昭　編集長：高村裕
〒380-8790　長野市県町593　高校教育会館内
TEL：026-234-1231　FAX：026-234-2219　ﾒｰﾙ：mail@nagano-kakushinkon.com

＝＝＝＝＝今号の主な記事＝＝＝＝＝

１面　高木直樹さんインタビュー
２面　１面続き、「松枯れ対策をめぐる諸問題」村山隆さん
３面　歴史認識と東アジアの平和フォーラム
　　長野市のリンゴ栽培が危ない、読者の声、漢字パズル
４面　「雨よ降れ」「ＳＮＳ」は透明人間　窪島誠一郎さん
　　「写真で辿る信州と戦争」 北原高子さん
　　映画評論『シンペイ　歌こそすべて』 内山到さん

長野県革新懇　検　索

気候変動打開のカギは
徹底した脱カーボン

高木 直樹（たかぎ なおき）さん

（自然エネルギー信州ネット代表理事）

1953年東京生まれ。82年東京工業大学大学院社会開発工学専攻博士課程修了、工博、84年信州大学工学部建築工学科に勤務、その後同助教授・准教授を経て信州大学学術研究院工学系教授、19年より信州大学 名誉教授。
この間、気候変動に関わる多くの役職を務め、その後、長野県地球温暖化防止県民計画専門委員会委員長、長野県地球温暖化対策検討委員会委員長として、地球温暖化防止県民計画、長野県温暖化対策条例策定に関与。長野市都市計画審議会会長、長野県開発審査会会長、長野市新エネビジョン策定委員会委員長などを歴任。11年から16年まで自然エネルギー信州ネット監事に就任。その後、現職。

甚大な被害を招く気候変動の影響

Q　頻発する異常気象の原因についてはどうお考えですか？

　去年が観測史上最高の気温になった年だったというニュースはご存知だと思いますが、過去10年ぐらいを振り返っても、地球上の気温の平均値のトップ10がほぼこの10年に発生しています。気温は絶えず上下を繰り返すわけですが、そのトレンドがずうっと上振れして今の状態になっていることはほぼ間違いがありません。気温上昇の影響については、ＩＰＣＣ（気候変動に関する政府間パネル）等で散々報告があって、例えば台風が多くなるとか、干ばつのエリアが増えるとか、局地的な大雨が頻発するとかということは20年位前からずっと警告を続けてきていることです。実際に長野でも記録的豪雨により千曲川が氾濫しましたし、全国を見れば各地で大雨による被害が毎年発生しています。つい最近の日本海側を中心とする豪雪も異常です。世界に目を向けても全く同様で、この間のカリフォルニアの大火事は記憶に新しいところです。気候変動の影響が明らかに我々の生活や命を脅かす事態を招いていると断言できます。

自然環境破壊の開発は規制すべき

Q　太陽光発電などの現状と課題についてはいかがですか。

　太陽光パネルは、できるだけ日当たりのいい場所に、できるだけ大規模に設置するほど儲けが大きくなります。企業はそれを狙ってパネルをどんどん設置し、その結果、太陽光発電が爆発的に普及したわけです。自然環境を無視して、山の木を切り倒した結果どのような事態が発生するかに関心がない企業がどんどん進めれば、様々な反対運動が起きることは当然です。
　そうした状況に対する反省として、長野県でも規制が強められ、中山間地の開発については相当厳しくなりました。反対している人たちの多くは山林の伐採などの乱開発に対する批判があると思います。他方で、人が住んでいる所、例えば隣の家の屋根の上に太陽光パネルを載せたら反対するという人もいないわけではありません。しかし、ゼロカーボンを目指す上で障害がなく一番簡単な方法は、パネルを屋根に設置して電気を賄うことです。
　屋根にパネルを載せるメリットは分かっているので、国も県も補助金を出しています。長野県は、以前は補助金が主力でしたが、今は県内のグーグルマップ上に全ての家がマッピングされていて、パネル設置の適否が判断できるようになっています。そこではそれぞれの家の設置可能なパネルの発電能力が示され、その発電量と売電額が分かるようになっています。県レベルでは長野県が全国で最初にそれを実現しています。割とご存じない方が多いので、もっと宣伝すればいいのにと思っています。長野県環境部や自然エネルギー信州ネットのホームページから入れますので、是非ともご覧いただければと思います。

拡大を図りたいソーラーシェアリング

Q　ソーラーシェアリングについての評価をお聞かせください。

　今、お米が足りないと大騒ぎしているわけですが、一つの原因として農業では採算がとれないから、農業従事者が減っているということがあると思います。農地が荒廃地になっている例はどこにもあるわけです。総合的な対策が必要だと思いますが、その一つにソーラーシェアリングの拡大が考えられます。田んぼの上に適切な量のパネルを載せると、長野の場合で言えばお米の売り上げの２倍から３倍の売電収入が得られます。お米の生産量が減るのではと思われるでしょうが、隙間を適切に開けて太陽光が入るようにすると、収穫量はパネルがない場合の90～95％ぐらいは確保できます。収入が増えることによって農業を続けていく可能性が開けると思っています。
　さらに、農作物によっては暑すぎるとダメだということもあると思います。農作物の種類によりますが、下で適切な農作物を作って上にパネルを載せて上下のダブル収入でやっていくというのは、これから農家のあり方としては十分にありえるのではないかと思っています。最初に長野県で始めたのは上田のガリレオという企業だと思いますが、始めはなかなか普及しなかった。しかし、県が後押ししていて、次第に広がっているようです。農業を振興していく上では一つの有効な対策ではないかと思います。

パネルの廃棄は技術開発がカギ

Q　太陽光パネルの大量普及に伴う処理についてのご意見をお聞かせください。

　パネルが本格的に増えたのは、東日本大震災の後にＦＩＴ制度（再生可能エネルギー固定価格買取制度）というのができて、固定価格で電気を買うようになってからです。２０１２年ぐらいから始まっているので、まだ10年ちょっとしか経っていません。多分２０３５年ぐらいから本格的に廃棄が始まると思います。
　パネルをリサイクルする仕事は確実にあるので、その時になれば手がける会社はかならず出てくると思いますし、それを見越して技術開発を始める会社が生まれることは間違いありません。技術的に有毒なものが流れでるということを言っている人もいますが、産業総合研究所なども１００％リサイクルできるという報告を出しているので、きちんと処理すれば問題ないと思います。

信州ネットの目的は自然エネルギーの普及

Q　自然エネルギー信州ネットについて紹介ください。

　創立は２０１１年７月ですが、東日本大震災があったから作ったのではなくて、茅野實さんを中心としてずっと準備をすすめてきた経緯があります。長野県は他県から見ると自然エネルギーの宝庫なんです。太陽光はすごいし、温泉があるので地熱もあるし、標高差があるので水力もすごい、さらに森林がものすごくあるからバイオマスもある。しかも一人当たりの面積も大きい。そういう意味で言うと、東京などの大都会から見たらもう羨ましくて仕方がないようなところです。その長野県において自然エネルギーの活用をもっと図ろうと考えたのがそもそものスタートです。
　そのためには技術的なことや資金的なこと、それから啓蒙が必要かもしれない、またいろいろな会社が個別にやっていても大きな力にならないから相談しながらやれるような場が必要だろうということ

【２面に続く】